

# 林光寺だより

真宗大谷派 林光寺広報委員会 発行  
〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町中屋敷 36  
Tel.(0533)57-3283 mail. linkou@sk.aitai.ne.jp



「初夏の足音・ツツジの展望台」 写真:近藤秀男 撮影地 形原町  
(説明) ある晴れた日に近くの公園へ そこにはツツジが見ごとに……

先日、蒲郡駅の下りホームで電車を待っていたら、向かいの上りホームに小学校低学年くらいの男の子が母親らしい人と立っていました。下りの貨物列車が近づいてきたら、貨物に向かって男の子が手を振りました。すると貨物の運転士が男の子に手を振り返し、ピッと警笛を鳴らして通っていききました。男の子は、とても嬉しそうにお母さんらしい人に何か話していました。そんな様子を聞いて、何か心が少し温かくなりました。

一方で、二月にアメリカがイランの女子小学校を爆撃し、子どもや教師一七五人が亡くなったニュースを思い出しました。当初、トランプ大統領は、イランの偽旗作戦だと言いましたが、今はa iの設定ミスによる誤爆だろうと報道されています。大人たちの身勝手な理屈で子どもたちが殺されていく、なんと理不尽なことでしょう。攻撃を命じたトランプ大統領は、『正義は我にあり』として、自分を正当化し攻撃を続けました。

たとい正義たりとも、しげからんことをば、  
停止すべき由候う。

蓮如上人はこう教えています。自分が正しいと思っても、みんなにとっても正しいとは限りません。人間の正義感、時に非常に残酷な結果をもたらします。これはトランプ大統領の話だけではありません。そういう私も『自分は正しい』という心で毎日くらししています。悪いのは相手の方です。そういう私の愚かさを教えるのが念仏です。大人の理屈や正義感ではなく、蒲郡駅で見た男の子と機関士のような、やさしい心のやりとりが、ほんの少しあればみんな争う必要がなくなるだろうと思うのですが。

(住職)

## 二〇二五年 報恩講話

テーマ「往生人」

おほしえしん

大橋恵真 師

柏原市遠慶寺住職

世間では「往生した」というと、困ったことが起こったという意味で使われており、また仏教では死ぬことの意味で使われていますね。ですが、浄土真宗における往生とは、すぐわれた者が仏様の世界への道歩んでいくすがたを往生といい、そのような人を往生人と言います。往生とは字のごとく「往って生まれていく」ということですが、親鸞聖人は、この往くということとは帰ると理解するべきだと仰っています。帰るといって、「正信偈」冒頭は「帰命無量寿如来」ですね。この帰命とは、本当のいのちの世界へ帰っていくということですね。どういうことかという例えは、旅行が楽しいと思えるのは、帰っていく場所があるからじゃないですか。無意識ではあってもそこに安心しているんだと思います。私たちの人生も同じで、お釈迦様は、人生は旅のようなものであり、仏様の世界

へ帰る方向へと歩んでいると仰っています。うちのお寺では毎年門徒さんと旅行に行くのですが、帰りのバスに乗せてもらったら、たとえ寝ていても家まで連れて帰ってくれるからもう安心だといって門徒さんたちはよくお酒を飲んでいきます。そこには、無意識ではあるものの、運転手さんへの絶対の信頼があるから安心していられているんですね。親鸞聖人はそれを船に乗ると例えられており、南無阿彌陀仏は私たちを仏様の世界へ連れていってくださるそのすがたを往生とおさえられたと思います。しかし、私たちは自分の力で何とかしようとする自力のこころを持っています。私はいくら努力しても私の力ではきとることのできない愚かな人間だということがはつきりしないと、阿彌陀様にまかせられないですね。つまり、今回のテーマである往生人を実現するのは、「愚者になりて」ということです。曾我量深という先生は次の言葉を残されています。

善人の多い家は争いが絶えない。悪人の多い家は笑顔が絶えない。

普通は善人悪人という時には、その人が倫

理的に優れているかを問題としていますよね。しかし宗教的な意味においては、自分がどういう人間であると思っっているかということになります。つまり、自分は正しく優れていると思っ込んでいる人を善人といい、そのような人たちが集まれば争いになりますよね。逆に、悪人とは、自分間違えもするし愚かな人間だと思っっている人のことであって、そういう人同士であればお互いを認められるのではないかと、このことを仰っっていると思います。ですが、ここで注意しなければいけないのは、反省の心より深いところに煩惱があるということなんです。反省して心自体が煩惱なことは、そんな悪い人間ではないと思っっていることが前提になっていて、そこから本来の善い人間に戻るための行為です。

私たちは南無阿彌陀仏と称えるだけで、すぐわれる愚かな人



間だと言われても、そんなことないという根性が先に起こってきます。そこに限界を感じてどうしようもなくならなければ、愚かな自分にはなかなか気付けないのかもしれない。

おはたぶんしょう

尾畑文正

師 元同朋大学学長

住職が「往生人」という問題提起をされましたので、私もそれを受けまして、往生人という言葉で何が表されているのかということを考えていただこうと思うんです。

資料は、善導大師の「二河（にが）の譬（たとえ）」という有名な文章ですが、「一切往生人等に白（もう）さく」という言葉からこれが始まるんです。一切とはすべてという意味です。浄土教仏教で往生といえは浄土に往生するという意味であります。だけど、もうひとつ使い方があります。天親菩薩や曇鸞大師を通すと「穢土に往生する」と。だけど、それは今お話しするのは難しいから、今は置いておきます。

善導大師が「人ありて西に向かいていか

んとほつするに」と。これはおそらく、人間という存在は、自覚しているかないかにかかわらず、誰もが西に向かう存在だ、こういう風に人間を規定したんだと思うんです。けども、自分はそれを自覚できない、そこが大事な一点だと思えます。

そうしたら、西とは何か。一般的に考えたら太陽が東から昇って西に降りていく。太陽というのがいのちを育み躍動させる、そういういのちのはたらきとするなら、西という方向が私たちの究極の帰り場所という意味が一つあります。ですから西というのはお浄土の世界です。浄土は西方にあると、お経には書いてありますね。お浄土は真実の世界であると。私たちは真実ならざる世界に生きている者が真実に帰って行くという運動を表す言葉が「西に向かいて」です。真実を求めて歩いているという自覚はないから流転するしかない。流転しているのも西を目指している、真実を求めて私は本当の私になれない。どのようにしたら真実に触れられるのか、それを善導大師は「二河の譬え」というかたちで明らかに

してくださったわけです。私たちは真実の世界を見失って、娑婆世界で悪戦苦闘して流転して迷っている。

迷っているから自分はどこから来たのかわからない。

だからあなたは真実の国から来たんだと、だからあなたは真実の世界に帰るべき存在なんだということ、真実に帰るときの浄土往生という言葉で教えられていると思うんです。迷いの世界に生きている者はあらためて真実の世界をめざして歩み、真実の世界に生まれるべき存在であるというのが浄土往生人と。私たち一人ひとり浄土に還るべき存在であるという意味では浄土往生人です。だから、善導大師は他の誰かに言っているのではなく、私たちに「一切往生人に白さく」と言っているんです。浄土に往生することで人間として成就すると。

（法話一部抄出）



インタビュー  
御 同 朋  
おんどろぼう

(13)

今回は、金平町で製鋼の会社を経営されている鈴木正清さんに製綱業のお仕事についてお話をお聞きしました。

すずきまさきよ

鈴木正清さん

(株式会社キョアキ社長)

Q、キョアキという会社名は？

鈴木さん これは、私のおじいさんの名前です。鈴木清秋と  
いってね。昔は下市に家があつて、お百姓とか、たまりやと  
か、いろいろやっていたそうです。昭和のはじめに知り合い  
に勧められてロープを始めたと聞いています。

小島製綱が元祖で、十手捕り縄の紐から始まっているらし  
いんです、ロープ作りというのは。うちの前に中部織物とい  
う大きな織り屋さんがあつて、そこで出る織物の耳なんかを、  
棄てるのはもったいないんで、それを擦ってロープにした。

化繊は大手の方でやられるんで、うちは綿糸ではじめたん  
です。だからうちのは、全部陸上向けです。お祭りとか、昔  
は履き物の鼻緒の紐もやっていたそうです。発祥はそういう  
ことです。

手動の機械で作っていました。織り屋さんがたくさんあつ  
たんで、くずがたくさん出て、棄てるのはもったいないんで  
廃物利用というのかね、そういうのから始まったようです。

それで、おやじさんが下市では狭くてやれんで、こっちへ  
移転してきたんです。

Q、どんなロープを作っておられるんですか？去年林光寺の  
幕用に寄付していただきましたが。

鈴木さん こういう紅白の綱はお祭りで使われるね。こうい  
うのはお寺や神社など、主に京都へ卸しています。これは子牛  
市場の入札の時の化粧まわしに使うらしいんですわ。あと、  
これはホームセンター向け、ホームセンターで切り売りする  
んで、何に使われるかわからんけどね。あと、インテリア用、  
それから警察が仕切り縄に使うロープとか、金糸やラメの入  
ったのはファッション関係の袋の手に使うものです。最初は  
綿ロープで始まったのが、お客さんから「こういうのできん  
か」と要望があつて、いろいろ枝分かれして細分化したわけ  
です。長いことやっていると無くなっていった物もあります。  
その最たるのが、昔はトラックの荷を縛るロープがよく出た  
けど、今は箱形のトラックになつてね。無いというわけには  
いかないんで、どこかに置いてあるけどねえ。

Q、蒲郡は繊維の町と言われますが、どういう状況ですか？

鈴木さん そうですねえ。昔は織り屋さんがたくさんありま  
した。しかし、今は蒲郡にほとんどありませんわ。それに比  
べて、まだロープは何で残ってるかというのと、織り屋さんは、  
擦糸屋さんとか、染色屋さんとか、裁断屋さんとか縫製屋さ  
んとか、いろんな産業が関わって出来てくるんです。それが

一つでも衰退してくると歯抜けになって、海外から製品が入ってきちゃうんです。今、蒲郡に染色屋さんは一軒もないですわ。織り屋さんはヒット商品が出ると、すぐ海外が真似してたくさん出来てきちゃうんですね。

ロープ屋は、一番元の糸から販売まで一貫してやれるし、数量が細かいわけですわ。外国製品が入りにくいということですね。それで救われてこの産業は残つとるんですけどね。

蒲郡だけで全国シェアの六割近くのロープが作られるわけですから、お客さんも寄ってくるわけですね。

漁業関係は圧倒的に大手さんです。船団を組んだりする漁には、膨大な量のロープが要るんです。一ヶ月に百トンくらい使われますんでね、一社で。

うちが恵まれたのは、紅白のロープは、お祭りとかお盆とか、常時出るわけではないんでね、大手さんはやられんわけです。うちはロープでも特殊部門ですから、他が真似せんのです。それで鳴かず飛ばずで残ってきたわけです。

**Q、社会が変化する中で傳承していくことは、どの世界でも大変ですよね。**

**鈴木さん** ある程度技術の傳承も必要だし、人手が要ります。愛知は、自動車関連が強いですから、そこに負けないように給料払って人を確保するのは大手さんでも厳しいんですよ。ロープを作る機械屋さんも激減してるし、修理する鍛冶屋さんも減ってってます。部品も作る人がいなくなってるんで、そういうところで修行をして、自分で何とかしようということもあるんです。今後は、大手さんは残るけど、小さい会

社は厳しくなっていくでしょうね。かといって、紅白のロープをやるところがないんで、取引先からは「やめんでくれよ」と言われるんで何とか頑張っているんです。

**Q、先日お父さんが亡くなって、挨拶の時に皆さんに鈴木家の歴史を話しておられましたね。**

**鈴木さん** はい、私は、私はいきさんにお経を教えてもらいました。おじいさんは、本山にも参りに行かれた。おばあさんは、よく肉付きの面の話（吉崎の）とか仏さんの話を聞かしておくれたんです。父親はあまり…でしたけどね、仕事に一生懸命で。（笑）

代々、仏さんを大事にしてきた家だと、子どもたちに傳承していかないといけませんでね。今の時代はだんだん変わってきてますけどね。息子には口うるさいと思われるかも知れませんが、話していかないと、伝わっていかんですからね。

**◇林光寺の墓地の一部は、鈴木さんのご先祖が畑だった土地を寄付いただいたもので、代々寺の護持にご協力いただいています。鈴木さんのお話をお聞きし、その思いに伝えるよう、寺を次の代にしっかり傳承して行かなければと、改めて思いました。**



## 仏教あれこれ

### 13 聖徳太子 その4 (太子信仰と親鸞)

たいし しんこう

太子信仰とは、聖徳太子を崇拜する様々な信仰のことです。

聖徳太子は日本に仏教を広めた聖人とされ、その信仰は法隆寺と四天王寺してんのうじを中心に日本仏教と共に発展し、特定の宗派を形成することなく、また地方の風習と融合した土着化や神社での祭祀、太子講など多様な信仰が生まれて現在まで受け継がれてきています。太子について記された伝記は、膨大な数がありながらも太子の事績と認定できる確実な史料は極めて少なく、その時々々の要求に答えるように姿を変えて描かれてきているようです。太子の聖人化は死後ただちにはじまりますが、誰が何の目的で行ったかは大いなる疑問です(前回の梅原氏の説では藤原氏の陰謀!)

天台宗てんだいしゅう・真言宗しんごんしゅうや鎌倉六宗かまくらろくしゅうが起こったころには、日本仏教の開祖とされ特別な扱いを受けるようになります。天台宗を開いた最澄さいちようは、法華経ほけきょう 将來說話などを受けて太子を崇敬し、太子は天台宗の聖人に数えられるようになり、9世紀頃には、天台僧が四天王寺べつとうの別当に就くようになります。そんな中で、太子を救世観音くぜかんのんの化身とする伝説が広まり、太子と救世観音を同一視するイメージが定着します。平安時代中期以降には、太子信仰が身分や性別を問わず極楽往生を望む者に広まっていきます。

親鸞もまた太子を崇敬したことで知られています。親鸞が詠んだ和讃わさんのうち4割近い191首が太子和讃であり、太子を「和国の教主た」と讃えています。親鸞が師事した法然ほうねんには太子信仰は見られず、親鸞が詠んだ和讃から四天王寺系の影響がみられます。また、建仁元年(1201年)に六角堂ろつかくどうで百日間参籠さんろうを行い、いわゆる「太子の夢告」を得て法然の元に参じた事も知られていますが、こうした親鸞による太子信仰はその晩年に顕著になったと考えられています。親鸞は建保2年(1214年)、常陸国稲田ひたちのくにいなだに行き、太子像を安置した堂を結んで念仏を広めますが、この東国布教が親鸞が太子信仰に傾倒するきっかけであったと推測できます。鎌倉時代末期に浄土真宗で行われていた絵解えときでは、太子伝に法然や親鸞を添えて描かれており、律宗りつしゅう教団の布教により太子信仰が根付いていた東国を足掛かりとして真宗教義を広めていったと考えられます。また、親鸞のいた鎌倉時代や、蓮如れんによの生きた室町時代は、専門分野の職人が現れ手工業が勃興しますが、中でも杣人そまびと(きこり)や番匠ばんしやう(大工)などの間では法隆寺・四天王寺を建立した聖徳太子を崇拜する太子講が盛んとなり、親鸞・蓮如がこれらの人々に布教するために太子信仰を利用したとも考えられます。

浄土真宗のお堂には阿弥陀如来の近くに聖徳太子像が必ずありますね。



法隆寺夢殿救世観音立像

[本の紹介]

\*\*\*\*\*

たつのこたろう 原作 松谷みよ子 脚色 瀬川拓男 画 久米宏一 童心社紙芝居傑作集

たろうは、山の中の小さな村に、ばあさまとふたりでくらしていた。  
おとうさんもない。おかあさんもない。たろうは、村の人たちから、  
「あれは、にんげんの子じゃない。たつの子だ。」と、いわれていた。  
でも、たつのこたろうは のんきもの。  
山へいっては、ともだちとあそんでばかりおった。  
ある日、たろうは ばあさまから こんな話をきいた。  
「おっかさんは、いきている。とおいきたのくにのみずうみに  
な・・・。」  
たつのこたろうは、おっかさんをさがすたびに出た。  
たびのとちゅう、てんぐさまに会った。おにも会った。  
それでも たろうはあきらめず、きたのくにのみずうみを目ざした。



このお話は、私が小学2年生のとき、担任の先生が読み聞かせをして下さったお話です。  
お腹に赤ちゃんのいる とてもきれいな先生でした。  
長いお話でしたが、私はお話の世界に吸い込まれました。  
せつなかったり、ときどきしたことを 今でも覚えています。

先日、市の図書館で、また『たつのこたろう』に会うことができました。あの時の教室にもどったような気がしました。

「たつのこたろうが、つよい、かしこい子になったら・・・」  
というおっかさんの願いは、そのまま、先生の赤ちゃんへの願い、そしてクラスの子どもたちへの願いだったのでしょう。  
「先生、わたしたち、こんなに元気に育ちましたよ。そして、がんばって生きてきましたよ。」  
と、先生にお伝えしたいです。

(形原町 鈴木 真理)

\*\*\*\*\*

Column

先日、大学時代の寮生の同窓会に参加してきました。私は京都の大谷大学に通い、一年間寮生活をしました。知らない土地で知らない人との共同生活というところで、入寮時はとても不安な気持ちでしたが、二、三日もすればすっかり馴染んで自分の居場所になっていました。男子寮女子寮合同でのイベントや学園祭で模擬店を出店したりと、寮ならではの思い出がたくさんでき、とても濃く充実した日々を過ごしました。また、学寮であった為きちんとした寮則があり、起床時間や門限のみならず、朝夕のお勤めやお聖教を拝読、ご本尊が安置された部屋に入りする時は頭礼する等、真宗門徒としての生活の基礎を学びました。

人間である以上、当然馬が合う合わないということとはあります。私たちの寮は同期が二十人いましたので、皆が皆等しく親密であるというわけにはいきません。私たちは日頃馬が合う間柄を仲間とし、その仲間意識によって同時に仲間はすれを生み出してしまします。しかし、寮での生活を思い返せば、毎日朝夕のお勤めをし、寝食を共にするということにはとても大きな力があり、個々の親密度に関わらず等しく仲間と呼べるのだと実感しました。

(証)

## 二〇二六年度 林光寺行事予定

### ◆ 真宗の集い

6月13日(土) 午後1時半

ほとけさまのお話 住職

バイオリンコンサート 中瀬梨予さん

### ◆ 夏の法話会

7月18日(土) 午後1時半 法話 櫻部 開師

盂蘭盆会 8月15日(土) 午前8時

### ◆ 秋季彼岸会・永代祠堂経

9月20日(日) ～ 26日(土)

26日午後1時半 法話 三浦真教 師

### ◆ 報恩講 12月10日(木) ～ 13日(日)

10日午後1時半 法話 大橋恵真 師

11日午後1時 法話 柳野明仁 師

12日午後1時 法話 平原晃宗 師

午後3時 御伝鈔 柴田俊史 師

13日午前8時 法話 織田慶雄 師

午後1時 法話 尾畑文正 師

### ◆ 修正会 1月1日(金) 午前9時

春季彼岸会・永代祠堂経

3月18日(木) ～ 24日(水)

24日午後1時半 法話 青木 馨 師

声明練習会 未定

### ◆ 日曜日おつとめの会

毎週日曜日午前8時

どうぞ、お参りください。

### 初盆のお参りについて

今年初盆を迎えるご家庭には8月13日から16日の間にお参りに伺います。ご希望の方は寺までご連絡ください。

#### 《お庫裡から》

回覧板等でご存知かと思いますが、昨年からこの形原地区でも子ども食堂が始まりました。活動の中心になっている方が林光寺のご門徒さんで、本堂を会場に貸してほしいと声をかけられ、年に三回林光寺でも開催されることになり、既に昨年七月と今年一月の二回おこなわれました。

ご飯の準備をしている間、レクリエーションの時間があがり、久しぶりに本堂に子どもの元気な声が響き、コロナ前の「小学生おつとめ練習会」のことをふと思い出し、うれしい気持ちになりました。

子どもだけでなく、大人の方も結構みえて、お手伝いの方も多く、にぎやかです。

次回は五月九日(土)に開催されますので、お近くの方は参加してみてください。  
(宏美)

林光寺ホームページもご覧下さい。

